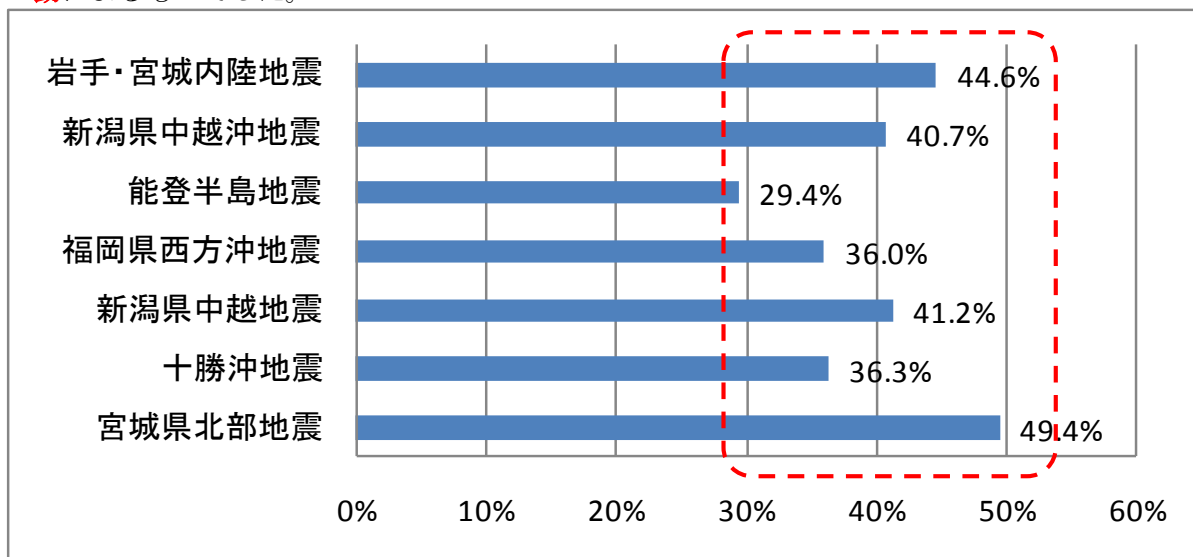


なぜ家具類の転倒・落下・移動防止対策が必要なの？

● 家具類の転倒・落下・移動による被害

○ ケガ

近年発生した地震でけがをした原因を調べると、約30～50%の人が、家具類の転倒・落下・移動によるものでした。



近年発生した地震における家具類の転倒・落下・移動が原因のけが人の割合

○ 火災の発生

家具などがストーブなどに転倒・落下することで、火災が発生するなど、二次的な被害も引き起こします。

○ 避難障害

避難通路、出入口周辺に転倒、移動しやすい家具類を置くと、避難経路を塞いだり、引き出しが飛び出すことで、つまづいてケガをしたり、避難の妨げになることがあります。

ご家族の負傷、火災の発生、避難障害の発生を防ぐためには、家具類の転倒・落下・移動防止対策が非常に大切です。

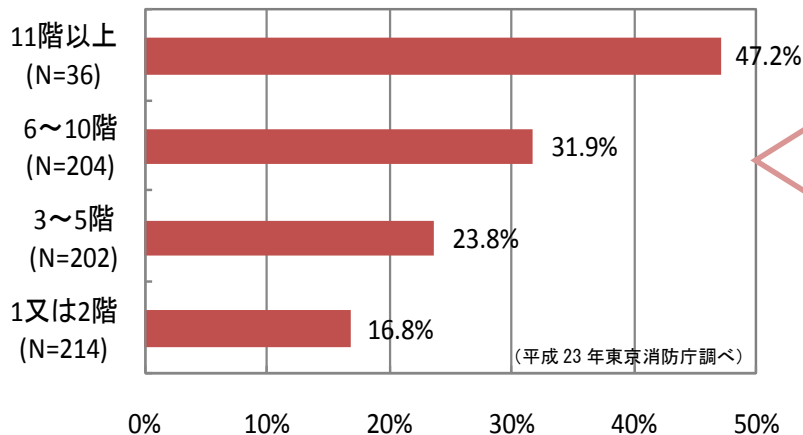
地震被害の概要

地震名	東日本大震災	岩手・宮城内陸	新潟県中越沖	能登半島	福岡県西方沖	新潟県中越	十勝沖
発生日時 (平成年/月/日)	23/3/11 14時46分	20/6/14 8時43分	19/7/16 10時13分	19/3/25 9時41分	17/3/20 10時53分	16/10/23 17時56分	15/9/26 4時50分
最大震度	7	6強	6強	6強	6弱	7	6弱
マグニチュード	9.0	7.2	6.8	6.9	7.0	6.8	8.0
死者・行方不明(人)	21,839	23	15	1	1	68	2
負傷者(人)	6,219	426	2,346	356	1,204	4,805	849
全壊家屋(棟)	127,830	30	1,331	686	144	3,175	116
損傷家屋(棟)	1,042,478	2,667	43,343	28,698	9,691	119,492	1,948
出火件数(件)	330	4	3	なし	2	9	4

平成27年3月9日現在

● 東日本大震災における教訓（高層階における室内危険）

東日本大震災の発生後行った東京都内でのアンケート調査では、階層別の家具類の転倒・落下・移動の割合から次のようなことがわかりました。



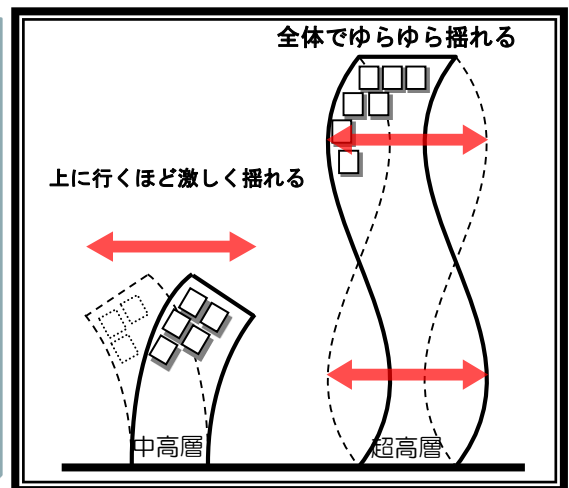
高層階になるほど、転倒・落下・移動している割合が多くなっています。
これは、長周期地震動が一因と考えられます。

※「移動」とは、家具類が転倒せずに概ね60cm動いた場合をいいます。

都内における階層別の家具類の転倒・落下・移動発生割合

【長周期地震動の特徴】

- 1 海の波のように遠くまで伝わります。
- 2 地震動が終息した後も、建物が数分に渡って揺れることがあります。
- 3 南海トラフ地震などのM8クラスの地震が起こると、都内の50階ビルでは片振幅2mに達する揺れが10分以上継続する可能性があります。
- 4 高い建物の高層階が被害を受けやすい特徴があります（建物や地域によって異なる。）。



長周期地震動が発生すると、建物の室内（概ね10階以上）では、以下のような危険性が考えられます。

危険性	高層階では、下層階に比べ揺れが大きくなる傾向があり、家具類の転倒・落下に加え、「移動」が発生する。
	！ キャスター付きの家具類は特に移動しやすい。（ワゴン、コピー機など）
	家具の移動により、挟まれる、ぶつかることによる負傷や、通路を塞ぐなどの避難障害が生じる可能性がある。
	机などの引き出し付きの家具は、引き出しが飛び出して倒れることがある。
	水槽などは中の水が大きく揺れ、転倒しやすくなる。
	吊り下げ式の照明などは大きく揺れて落下する可能性がある。
家具類の転倒・落下・移動による火災が発生することがある。	